

中学部 習熟度別グループ学習・国語科 実践のまとめ

2019.12.25

北海道室蘭養護学校 野呂 絢子

1、はじめに

2019 年度中学部では、習熟度別グループ学習の試行的取り組みとして、読み書きの能力や小集団の前で発表をする力を生徒同士の関わり合いの中で伸ばしたい7名の生徒を抽出し、多層指導モデルMIMを活用して国語科の指導を行いました。実践の経過、成果と課題をまとめることで、次年度の方策に繋げていきたいと考えます。




2、年間指導計画※2校時（9：35～10：20）中学部プレイルームにて（10月8日改訂版）






一学期		二学期		三学期	
5月28日（火）	オリエンテーション、促音	9月30日（月）	促音、長音	2月10日（月）	まとめ
6月3日（月）	促音	10月1日（火）	拗音	2月12日（水）	まとめ
6月4日（火）	長音	10月7日（月）	拗音	2月18日（火）	まとめ
6月11日（火）	長音	10月21日（月）	拗長音	2月19日（水）	検定
		10月23日（水）	拗長音		
		10月28日（月）	検定		
		12月3日（火）	活用		
		12月10日（火）	活用		
		12月17日（火）	活用		
		12月24日（火）	検定		

※行事、実習の期間を除き、1～3年生の生徒が参加可能な日程を探して設定しました。

※4月当初は年10回の計画でしたが、指導の充実と定着を図るため10月に18回に増やしました。

3、実践の経過（12月25日現在）

日時	指導内容	参考写真
5月28日（火）	【オリエンテーション】 ・テレビにスライドを映し、学習の目標、参加する生徒と担当教師、日程の確認を行う。 ・テレビに表示された通りに、手元のカレンダーの日付の下にシールを貼る活動（写真①）を通して、黒板視写の実態を見る。	
6月3日（月） 6月4日（火） 6月11日（火）	【促音・長音の指導】 ・アセスメント（MIM-PM）のテスト、視覚化・動作化のルール説明、言葉集め（視写）、パンっとクイズ、振り返りの流れで行う。 ・トレイに鉛筆2本、赤鉛筆1本（写真②）を入れ機の端に置く、先生の話を聞く時は「きをつけ」の姿勢をする、消しゴムは使わず斜線を引いて隣に答えを書くということを約束し、守れた時に即時で誉める。	写真① 
9月30日（月）	【促音、長音の復習】 ・約束シート（写真③）の説明、言葉の木作成（写真④）、拗音の予習、振り返りの流れで行う。 ・約束を守れた時に約束シートの欄に教師が丸印を記入する。また、発表したら花丸を記入する。	写真② 

10月1日(火) 10月7日(月) 10月21日(月) 10月23日(水)	【拗音、拗長音の指導】 ・視覚化・動作化のルール説明、言葉集め(視写)、かるた大会、振り返りの流れで行う。	
10月28日(月)	【早口言葉検定】 ・検定の説明、検定(写真⑤)の実施、かるた大会、振り返りの流れで行う。 ・検定を受ける生徒は、皆の前でちょっとかわった早口言葉を読む。他の生徒は審査員になって、良かったらいいね札(写真⑥)を上げ、理由を検定シートの中から選んで言う。教師がいいねシールを貼り、5ポイント以上で合格。認定証を授与する。	写真④ 
12月3日(火) 12月10日(火) 12月17日(火)	【活用】 ・視覚化・動作化の復習、アセスメント(MIM-PM)のテスト、聴写、たけのこ読み、ババ抜きゲーム(写真⑦)、振り返りの流れで行う。	写真⑤ 写真⑥ 
12月24日(火)	【早口言葉検定】 ・検定の説明、検定の実施、ババ抜きゲーム、振り返りの流れで行う。	
2月10日(月) 2月12日(水) 2月18日(火) 2月19日(水)	【まとめ】 ・視覚化・動作化の復習、アセスメント(MIM-PM)のテスト、音読クイズ、かるた大会、振り返りの流れで行う予定。最終日に検定を行い、認定証を授与する。	写真⑦ 

4、成果

○特殊音節の入った言葉や文章を正しく読めたり書いたりすることが増えた。特殊音節の入った言葉を日常的に見つけて伝えに來たり、宿題に積極的に取り組んだりするなど、褒められたくて行動しているうちに、言葉に興味を持ち、語彙が増えてきている。

○約束シートを活用することで、授業のルールを守っている生徒には丸をつけ、そうでない生徒には約束シートを指さすことで確認し、MTの言葉掛けを減らした。そのことでMTの発問を集中して聞く姿勢が取れるようになり、素早く視写して「できました」と報告し丸付けしてもらおうという、一斉指導のスタイルに馴染んできた。

○一斉指示で行動できる生徒が増え、授業中の発言は丁寧な言葉遣いを意識してできるようになってきた。

○友達の発表に刺激を受けて自分の番で頑張ろうとしたり、応援したりする関係性ができた。答えを板書した後、友達に向けて「いいですか?」と問い「いいです」と返ってくることで自己調整の力が身に付き発表に意欲的に取り組めるようになった。ゲームでは、ルールを守り、相手をよく見ることや友達と適切に関わることを学んでいる。

5、課題

●長音は理解しているが、片仮名になると伸ばす棒がどこに入るかわからなくなったり、拗長音の小さい「ゆ」と「よ」を間違えたりすることが多い。

●3語文以上の長い文章になると聞き逃したり、どこで区切って読めばいいのかわからなくなったりする。

●授業中の約束について学部や学校で統一されていないため、習熟度別学習日の間隔が空くと忘れてしまう。定期開催を検討し、中学部において授業中の約束の共通理解を図る。

●特別支援学校では、児童生徒の集中力や記憶力に実態差があり、一斉指導以前の課題や理解の仕方等障がいの特性に配慮しながら学習の効果を上げるためには、曜日を決めて週に1~2回実施することが望ましい。